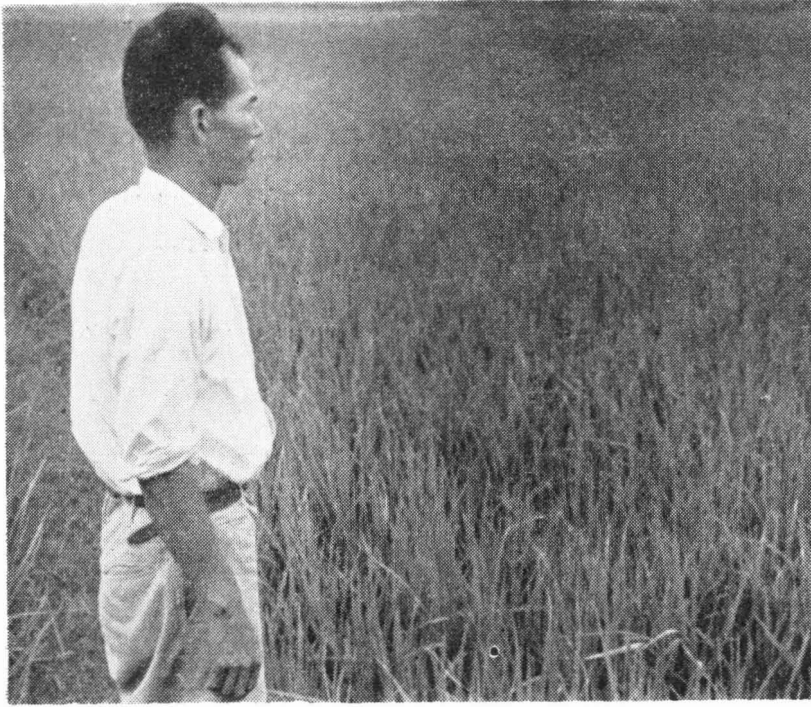


琉球大学学術リポジトリ

地力を高める技術

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 比嘉, 信吉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19794

地力を高める技術



(去年客土して改良された田んぼだけど本当に見違える程地力が増進しました)と石川市農改普及員新垣氏はすくすく伸びた稲を見乍ら語つた 石川にて

肥料を人間の食物にたとえると、地力は体力に相当します。さて食物である肥料が敢高度にそのききめを發揮するためには健康な身体があつてこそです。それでは

よい地力とは

よい地力を決定する土壌のよしあしは、人の筋肉、骨格にも相当する土骸(土のほねぐみ)つまり土の物理的性質と血液の動きにも似た土精、即ち土の化学的性質のよしあしによってきめらるるものです。この二つの性質は更に相連關係しているものですが、この土骸土精の二性をよい状態にするのが地力を増進するということになるのです。

もっとくわしく述べて見ますと土の物理的性質では土の組立てが、水、砂、粘土の割合が適当であり、通気(空気の通りぐあい)水はけ、肥もち(土の吸取力)がよくて、それに作土は深くて根のびがよく、作土と心土との關係もよい(一方が砂土なら一方は埴土という風に反対のものが混合よい)。一方化学的性質の方も、土の反応は中性またはこれに近く、硝化菌(蛋白質を分解するバクテリア)根瘤菌(マメ科作物のコブにつき空気のチツソを固定する)遊離窒素固定菌(単独で反当七百匁 硫酸三匁五百匁に相当する空中チツソを固定す

単粒状



団粒状



土の粒の集り方

る)等のよい細菌の繁殖が多く、土をよくする腐植分の適量をもっており、肥料養分も作物にすわれ易い形態で豊かに存在している。このような土をよい地力をもっているといえるのである。それではこのようなよい土にするためにはどうすればよいのでしょうか。

地力を高めるには

一、耕転…むかしから「肥より鉄」「七度すけば肥いらす」といわれておりますが、何回もたがやす程、土粒子の構造を図一のように団粒化し、また風化作用を促進して土の中にある有効養分を増加します。

又耕てんをして土の乾燥の状態を十分保つほど肥料分の有効化の度合いが大きくなります。

説明

普通土粒の状態は豆粒状で土粒間のすきまが少なく水も空気もよく通れず、また植物が根をはるにも不便です。然しよく耕てんとすると下図の団粒状となり、土粒間のすきまが沢山あって水も空気もよく通り植物が根をはるのにも便利で。

二、深耕…「土一寸、米二石」のたとえのように、多肥と多取は深耕を伴ってはじめてかなえることが出来るので

す。ただし水持ちの悪い田や、心土の悪い畑地などでは、急激な深耕はさけるのがよい。それはますます水持ちを悪くするからです。次に心土の土は養分が稀薄である

から、必ず堆肥を働き込むことが肝要であり、徐々に深耕する方が効果的です。

三、乾土…土を乾燥すると有機物が分解されてアンモニア化します。

乾土のききめは畑よりも水田、乾田よりも湿田が高く、冬期は特にききめがあります。沼や湖の底土をさらし乾燥して使うと効果の高いものです。

四、焼土…乾土効果さらにつよく出したようなもので土の表層一、二寸をけつり火をつけていぶしやきにします

土の色が風乾した場合と同じ色になります。そうすると土の中のチツソが有効化すると同時にリンサンもきいてきます。然しながら沖繩のようにやせた土地(特に砂地)ではききめが低いのであまりすすめたものではありません。

五、客土…これは(一)土性改良(二)耕土の増加(三)肥料養分補給の三つの目的を主として行います。

(一)の場合には砂質(ウシマト壤等)に填充(ジャール土壌)又は泥炭土等という性質の違う土を客土した方が良

い。(三)の場合は、耕土に近い肥えた土が望ましいものです。秋落田に客土をする場合は堆肥を併用した方が効果的であり又泥炭地等に客土した場合は肥料分が有効果して来ますのでチツソをやり過ぎないように注意致します。

果菜類育苗の必要性

(二)

三、果菜類の市場価格と

早熟栽培の利点

果菜類を早期に収穫開始することは台風期までの収穫期間を長

くするだけでなく単価の高い時期に出荷することになり、この点でも有利な経営が出来る。

第一図から第七図までは農運市場における果菜類の斤当り卸価格の変動を示すもので細線は一九五五年六月上旬より一九五六

客土用の土として堆肥を付近や床下の土又は乾燥した沼土、海岸の砂土を使うとききめが多いものです。

六、排水…畑では地下水の位置が地表から概ね三尺以下がよく、高い場合はよくないといわれています。従って重粘土壌や泥炭地などでは特に排水することに注意すべきです。

排水後は地温が高まりチツソ成分が有効果しますから、それだけ作物によく利用される訳です。

七、酸性矯正…土壌の酸度を検定して、石灰の適量を

土とよくまぜることで、酸度の検定や石灰の適量は村の普及員とよく相談しましょう。

一度酸性を矯正すればききめは数年保ちますが再び酸性にもどりますからたえず土壌の酸度に注意することが肝要です。

開拓地は一般に酸度が高いものです。

八、有機物施用…「山か里に下れば豊作」の例えも

ありますが、土地改良には有機物がどんな場合でも必ず必要です。

堆肥や厩肥や緑肥等をうんと増産して地力を作り上げ、土精の両面をつねに活発にし土をつくるのが増産の根本といわねばなりません。(比嘉信吉)

年五月下旬までで、本線は一九五六年六月上旬より一九五七年五月下旬までのものである。

八月以降の両年間の単価の差の大きいのは台風の関係で一九五五年には十月に一回あっただけで、果菜類に大した被害はなく、一九五六年には八月に一回、九月に二回はけしい台風に見舞われ、なす、キウリ、ニガレインは殆んど全滅したと思われる。一般的に野菜の過度不足を来し、残余の果菜類が急激に高騰したためである。